

地産地消の取組「志布志湾ぶえん祭り」を支援

大隅地域振興局 林務水産課

【背景・目的】

志布志湾岸に隣接する内之浦漁協，高山漁協，東串良漁協，志布志漁協の四漁協は，漁業者の漁業所得向上並びに地域水産業振興を目的に協議会を立ち上げ，平成22年より毎月1回，東串良町の物産館敷地内で，朝獲れの魚介類等を直販する「志布志湾ぶえん祭り」を開催し，地元で水揚げされる鮮魚等のPR・地産地消の推進を図っている。

【普及の内容・特徴】

地産地消の推進を図るため，協議会に参加し，PR・直販手法等の指導・支援を行った。

(1) 直販場所

東串良町物産館「ルピノンの里」

(2) 開催日時

毎月第4土曜日の午前11時から（4月は2回／月（第2，4土曜日の午後2時から））

(3) PR・直販手法等の指導

協議会に参加し，水産物販売に併せて行うイベント企画に参画したほか，販売手法等の検討，移動販売許可車の許可取得指導を行った。

(4) イベント開催の支援

平成22年12月25日に開催された「祝1周年記念志布志湾ぶえん祭り」の企画，実施を支援した。

【成果・活用】

(1) 直販状況

4月は2回午後から開催したが，来客数の減少及び実施者側の負担増を考慮し，以降は月1回午前11時の開催とした。しかし，口蹄疫の関係で5～7月は休止し，平成22年度は計10回の開催となった。出品数は魚介類45種，加工6品（魚介類：5～37種／回，加工品：2～4品／回），販売量は150～950kg／回，売上額は10～27万円／回の範囲であった。なお，販売手法は，テント内の机に陳列した水産物は「見本」と位置付け，移動販売許可車からの販売形式で行った。

(2) イベント状況

4漁協，1漁協青壮年部，1市3町の担当者等，総勢28名で水産物等の販売，振舞汁の提供，抽選会，ブリの捌き方ショーを実施し，漁協間の更なる協力体制，地産地消のPRが図られた。ただし，当日は天候が悪かったため，来客数が思ったほど伸びず，客を引きつけるためのイベント（和太鼓演奏など）の効果も薄く，今後の取組に対する検討課題を再確認することになった。

【その他】

「朝獲れ直産」を売りにしているため，時期・天候により左右される鮮魚等の確保や来客数の予測がつかない中での需給バランスが課題となっており，このことで告知範囲の拡大についても二の足を踏んでいる状況である。

また，更なるPRを図るため，既存施設内での常設販売についても検討し，対象となりえる施設の選定及び施設管理者等との協議，調整等も考える必要がある。

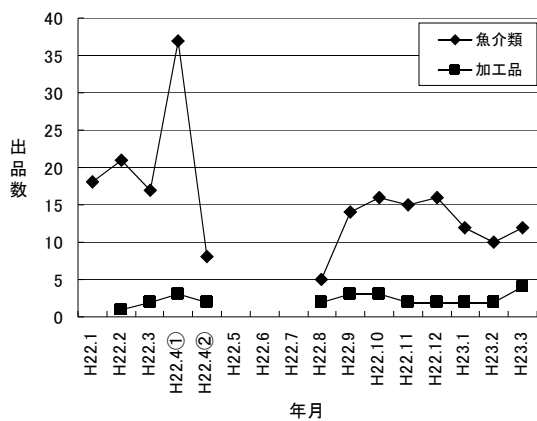


図-1 出品数の推移

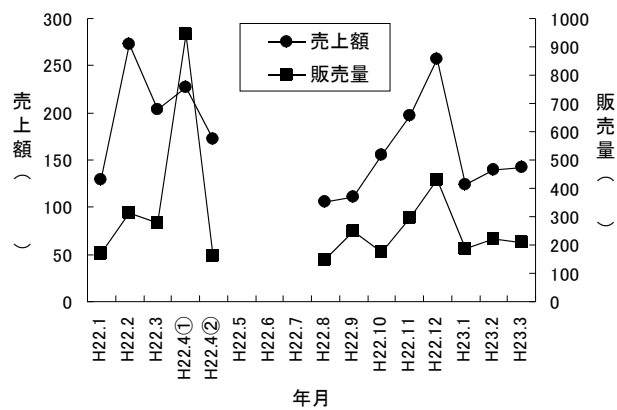


図-2 売上金額, 販売数量の推移

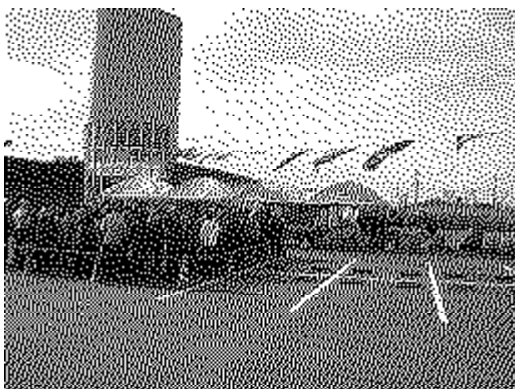


図 - 3 会場



図 - 4 直販



図 - 5 振舞汁



図 - 6 抽選会



図 - 7 捌き方ショー

表 - 1 イベント開催時の状況等

出品数	18品 魚介類16, 加工2
販売量	432
売上額	257
数	200